

Top News

市立小中学校の現状と課題について

本市の教育を取り巻く環境は、児童生徒数の減少、学校施設の老朽化、学習環境の変化、分散進学等、複合的かつ深刻な課題に直面しています。これらの状況に的確に対応することは、子どもたちの健やかな成長と質の高い学びを確保するうえで重要です。こうした状況を踏まえ、従来の教育制度や学校運営のあり方を見直し、時代の変化に即した柔軟な対応が求められます。本市が目指す将来像を実現するには、教育環境の課題に対する具体的な対応とあわせた、小中一貫教育の更なる推進が必要です。そこで、現在市内の小中学校において、早急に解決すべき課題として下記の4点を抽出しました。

児童生徒数減少による 学校の小規模化



小中一貫教育の さらなる充実



桑名市立小中学校の

早急に解決すべき課題



学校施設の老朽化

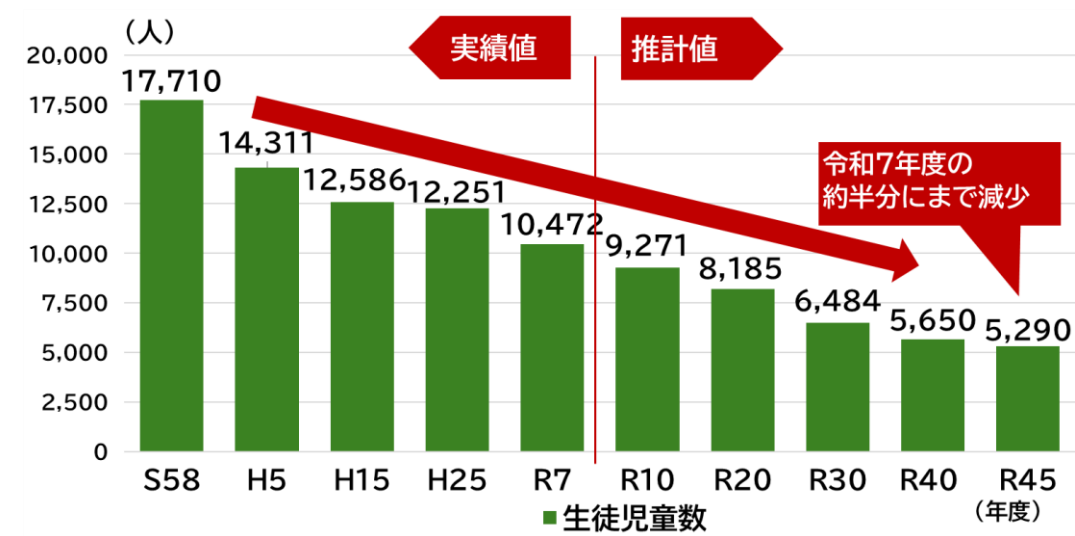


分散進学

Spotlight① 児童生徒数減少による学校の小規模化

桑名市の児童生徒数は今後も減少する予想です。市内の出生数について、令和7年度の出生数は市が打ち出す、人口減少対策パッケージによる移住施策や子育て支援施策などの取り組みもあり、9年ぶりに昨年度比出生数が増加に転じました。しかし、本市の児童生徒数については令和45年度には現在の約半数にまで減少する試算となっています。現在の小学校・中学校を今後も維持する場合、1校あたりの児童生徒数は減少し、小規模校が増加すると見込まれます。小規模校には、児童生徒同士の関係が密接で、きめ細やかな指導を受けやすいという側面がある反面、同世代との多様な交流が困難となり、子どもたちが身に着けるべき表現力・思考力・判断力等の「生きる力」の育成に不利に働くおそれがあります。また、小規模校化は教職員の配置も少ない傾向にあり、教職員の負担増加にもつながります。

○児童生徒数の推移



Spotlight② 学校施設の老朽化

市内の小中学校（多度学園を除く31校）の内18校が令和8年4月時点で築50年を経過しています。学校施設は、子どもたちの学習や生活の場であり、学校教育活動を行うため、充実した教育活動を十分に展開できる、機能的な施設環境を整えるとともに豊かな人間性を育むのにふさわしい、快適で十分な安全性、防災性、防犯性や衛生的な環境を整えた安全・安心なものでなくてはなりません。現在は、長寿命化や修繕などで適切に維持管理されていますが、このままでは将来的な安全の確保や、技術進展に伴う今後の教育の変化への対応が難しくなる懸念があります。これからの教育を支えるためには、学校施設のあり方を根本から見直し、新しい時代に対応した環境整備を進めていくことが不可欠です。

○市内小中学校の築年数（各学校の最も古い校舎の築年数 単位：年） 令和8年4月時点

小学校				中学校			
学校名	築年数	学校名	築年数	学校名	築年数	学校名	築年数
日進	63	桑部	51	大山田西	41	成徳	60
精義	64	在良	55	大山田南	35	明正	62
立教	58	七和	54	藤が丘	31	光風	51
城東	37	久米	54	星見ヶ丘	25	陽和	39
益世	59	深谷	55	長島北部	48	正和	51
修徳	57	城南	64	長島中部	56	陵成	44
大成	62	大山田東	47	伊曽島	47	光陵	37
大和	55	大山田北	44			長島	40

Spotlight③

小中一貫教育のさらなる充実

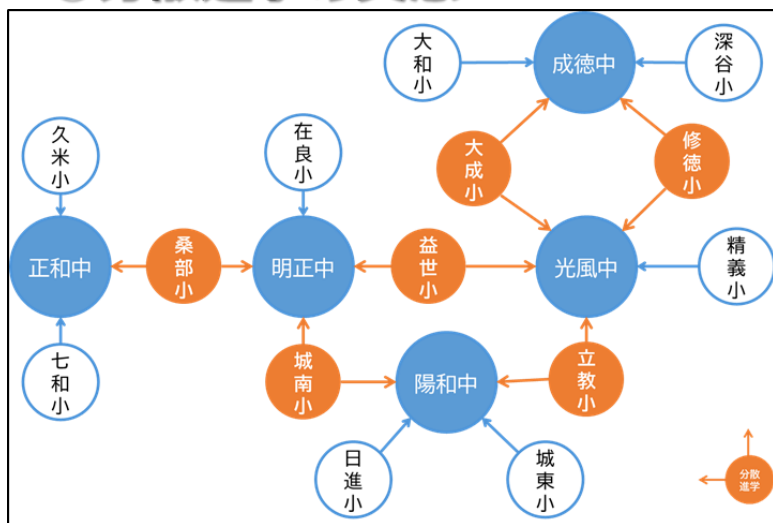
市では、令和2年より施設分離型で小中一貫教育を実施しています。小中一貫教育の目的は、小学校と中学校9年間の教育活動をスムーズにつなぎ、子どもたち一人一人の成長をしっかり支えることにあります。小中学校がしっかりと協力し、9年間を見通した学習や活動を行うことで、子どもたちの学びや成長をより効果的にサポートしていきます。本市においては、小中一貫教育の実施により、これまで学習面や生活指導面において一定の効果がみられています。一方で、施設分離型であることで、教職員間の連携や合同研修、打合せ時間の確保等における負担が課題となっています。

Spotlight④

分散進学

市では、公立小中学校の通学区域は自治会等で区分された「学区」により定められています。また市内には、1つの小学校から2つの中学校に分かれて進学する「分散進学対象校」が6校あります。市では小中一貫教育をすべての中学校区で展開しており、各学校は地域の方々と連携・協力して教育活動に取り組んでいます。が、「分散進学対象校」の児童は2つの中学校区に進学するため、一部の児童は小学校時代に受けた小中一貫教育とは、異なる中学校区で小中一貫教育を受けることになります。そうした児童には、将来進学する中学校での体験・交流活動に参加するなど配慮や調整を行っていますが、共に過ごしてきた友達とは離れて中学校生活をスタートすることになるため、結果として心的不安を抱かせてしまう等の懸念があります。同じ小学校の児童が原則同じ中学校に進学できる環境づくりは、地域に根差した学校づくりの観点からも望ましいと考えます。

○分散進学の実態



ブロック名	中学校	小学校
成徳ブロック	成徳中学校	大成小学校・深谷小学校・大和小学校
明正ブロック	明正中学校	益世小学校・桑部小学校・在良小学校
光風ブロック	光風中学校	精義小学校・立教小学校・修徳小学校
陽和ブロック	陽和中学校	日進小学校・城東小学校・城南小学校
正和ブロック	正和中学校	七和小学校・久米小学校
陵成ブロック	陵成中学校	大山田東小学校・大山田南小学校・藤が丘小学校
光陵ブロック	光陵中学校	大山田北小学校・大山田西小学校・星見ヶ丘小学校
長島ブロック	長島中学校	長島北部小学校・長島中部小学校・伊曽島小学校

↑ 小中一貫教育のブロック割 (朱色: 分散進学対象校)

← 分散進学対象校 (小学校、中学校相関図)

【分散進学している小学校区】

立教小学校⇒光風中学校と陽和中学校
益世小学校⇒光風中学校と明正中学校
修徳小学校⇒成徳中学校と光風中学校
大成小学校⇒成徳中学校と光風中学校
桑部小学校⇒明正中学校と正和中学校
城南小学校⇒陽和中学校と明正中学校

6の小学校区で分散進学

その他17の小学校区は集中進学

※多度地区を除く